

新小山市市民病院ニュースレター Shin-yama City Hospital News letter No.14

<http://hospital-shinoyama.jp/>

〒323-0827 栃木県小山市神鳥谷2251-1 ☎0285-36-0200 (代表)

病院長挨拶

急性期病院としての役割を果たす

新病院が開院して間もなく本年4月には、2年に1度の診療報酬制度の改定がありました。私たち団塊の世代が後期高齢者に達する2025年を見据え、医療・介護の世界は、今や激動期に入ろうとしています。10年前に、看護体制を充実し重症で緊急性の高い患者を受け入れる病院を優遇するために設けられた「7:1一般入院基本料」(常時患者さん7人に対し看護師1人の配置)は、これを算定する病院数が当初の予想を遥かに上回ったため、医療費を圧迫する大きな要因となりました。そこで今回、“なんちゃって7:1”の病院をふるい分けようとして、入院患者の「急性期度」や「重症度」を表す「重症度、医療・看護必要度」の基準が厳格化されました。要介助などの看護必要度以外に救急入院あるいは手術や侵襲的治療を要するなど医療必要度の比重を高めたのです。その結果、速報では全国の20%程度の現行7:1算定病院が、新しい基準をクリアできなくなる恐れがあるそうです。幸い、当院は余裕を持ってこの基準を満たしており、本院は地域において急性期病院として確実に認知されており、かつその期待に応えているのではないかと思います。

新病院移転後、本院の患者来院エリアは、小山地区は大きな変化はありませんが、小山市北部からの救急搬送が減少傾向で、逆に間々田、大谷地区は増加しています。地理的に近くなったためか、結城、野木、筑西の救急搬送患者が、30-60歳代の若年層を含め顕著に増加しました。一方、予定入院の数には大きな変化はみられません。

新小山市市民病院は、地区医師会の先生方に支持されてこそ、その役割が果たせます。今後とも、救急を断らず病院全体で受け入れる体制の構築とともに、医療の質とレベル、そして患者サービスの向上を図り、小山市および近郊地域からの紹介入院患者を増やすことに取り組んで参ります。

平成28年9月

新小山市市民病院 理事長・病院長 島田和幸

トピックス

「第5回 新小山市市民病院 ふれあい祭り」を開催します

10月16日(日)9:50～新病院移転後初めてとなるふれあい祭りを開催いたします。医療ミニ講演会では、自治医大ステーション・ブレインクリニックの藤本先生にご協力頂けることとなり、職員一同感謝しております。

新たな試みとして、室外イベント(予防医学ウォーキングレクチャー、ハンギングバスケット講座、病院健康探検ゲームなど)も企画しました。ほかにも、新たなイベントも検討しております。ぜひ遊びにいらしてください。

☆ミニ講演会(無料)☆

10:30~11:00「声と健康」

新小山市市民病院 耳鼻咽喉科部長 金澤 丈治 先生

11:15~11:45「がんって、どんな病気?」

新小山市市民病院 緩和ケア認定看護師 渡邊 佳代

13:30~14:00「しあわせになれる認知症のみかた」

自治医大ステーション・ブレインクリニック

CEO 藤本 健一 先生



新任医師からのご挨拶

整形外科 副部長
高田 尚

☆8月1日より整形外科に新しく高田先生が着任されました☆



平成28年8月より新小山市民病院の整形外科に着任いたしました高田 尚（ひさし）と申します。平成8年に秋田大学を卒業し地元栃木に帰ってきて自治医科大学の整形外科医局に入局し、大学および関連病院で研鑽を積んでまいりました。

整形外科医が一人増えたので今までの忙しさが少しは緩和され、紹介患者や救急対応もある程度余裕をもって対応できる！?といいのですが…まだまだ小山市をはじめ周辺地域の整形外科的なニーズは多いと思われます（外傷や変性疾患など）ので、東、田中、中島先生ともども頑張っていきたいと思っております。

医師会の先生方におかれましては、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

硝子体手術・心臓手術のご報告

当院眼科では、網膜・硝子体治療にも力を入れるべく、平成27年10月より硝子体手術を新たに開始いたしました。硝子体手術件数も日を重ねるごとに増加しており、これも日頃から医師会の先生方や市民の皆様のおかげと感謝しております。

現在、硝子体手術は、糖尿病網膜症・黄斑円孔・網膜前膜などの疾患に対して、予定入院での手術を行っております。そして、緊急手術が必要なより高度な硝子体手術へ対応する体制作りが今後の課題となってきております。

白内障手術・レーザー治療・緑内障治療・硝子体注射・外眼手術など様々な治療・手術を行っておりますので、目の疾患に対してお困りのことがございましたら、ぜひご相談いただければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



新病院移転前の2015年までは当院に搬送収容された大動脈瘤破裂や急性大動脈解離の緊急症例が大学病院でも受け入れ困難なために遠く県外に移送した事例もありました。患者さんの地元での心臓手術を可能にすることを目標として新病院移転も落ち着いた2016年4月から、新小山市民病院では人工心肺を用いる心臓手術を開始しました。

4月～8月までに行った心臓手術実績は、下記の通りです。

- ① 81歳女性・大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術
- ② 55歳女性・僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁置換術
- ③ 66歳女性・僧帽弁狭窄症手術後再発に対する僧帽弁置換術
- ④ 74歳女性・肝硬変を有する僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁置換術
- ⑤ 76歳男性・広範囲心筋梗塞に対する冠状動脈バイパス術（緊急）
- ⑥ 59歳男性・収縮性心膜炎に対する心膜剥皮術
- ⑦ 71歳女性・大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術
- ⑧ 79歳女性・連合弁膜症に対する僧帽弁置換術、三尖弁形成術
- ⑨ 72歳男性・不安定狭心症に対する心拍動下冠状動脈バイパス術（緊急）
- ⑩ 69歳男性・僧帽弁閉鎖不全、狭心症に対する僧帽弁置換術、冠状動脈バイパス術
- ⑪ 77歳男性・大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術
- ⑫ 66歳男性・狭心症に対する冠状動脈バイパス術
- ⑬ 59歳男性・僧帽弁形成術後4年逆流再発に対する僧帽弁置換術
- ⑭ 68歳男性・僧帽弁閉鎖不全に対する僧帽弁形成術

広範囲心筋梗塞の緊急症例1例は残念ながら救命できませんでしたが、その他の患者さんは経過良好です。

新病院に移転して現在までに、腹部大動脈瘤破裂の緊急手術3例も行い全例救命し退院するなど、すでに大学病院で受け入れ困難な緊急症例も当院で手術を行っており、小山地域連携中核病院としての一定の使命は果たしていると自負しております。循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・臨床工学技士・看護師が一体となって「Oyama Heart Team」を形成し循環器疾患の救命治療に努力してきた成果だと考え、ますます精進してまいりますので、小山地区諸先生から当院へ循環器疾患患者さんのご相談ご紹介をおまちしております。心臓手術が始まったからといって下肢動脈バイパス（血行再建）・静脈瘤の手術件数を減らすようなことはいたしませんので、引き続き血管疾患の患者さんのご相談・ご紹介も宜しく申し上げます。

心臓血管外科 上西 祐一朗





このような疾患をぜひご紹介ください。

皮膚科 部長 藤田 悦子

私は、平成9年に浜松医科大学を卒業後、東京大学皮膚科に入局し、都内の病院3ヶ所に勤務しました。栃木県に転居すると同時に平成16年に自治医科大学皮膚科に入局し、時折、非常勤医師として当院で診療しておりました。途中、専門医を取得し、外来医長を経て、出産や米国への留学などのブランクもありましたが、皮膚科診療に従事して約20年になります。

皮膚疾患は多岐にわたりますが、当院では小山周辺地区の急性期病院としての役割を担うべく、様々な疾患に対応していきたいと考えております。しかしながら、現在のところ1人体制であるため限界もあり、進行期の悪性黒色腫を代表とする皮膚悪性腫瘍の手術および化学療法、放射線療法、重症熱傷の手術、重症の乾癬に対する紫外線療法や生物学的製剤の使用、美容皮膚科については対応しかねる状況です。

代表的な皮膚の common disease である成人や学童期の難治性のアトピー性皮膚炎については悪化要因を問診で吟味し、接触皮膚炎の合併の有無やスキンケアを含めた加療を丁寧に行っております。小児アトピー性皮膚炎および乳児湿疹についても食物アレルギーや小児喘息を合併する方も少なからず存在するため小児科医師とも連携し加療を行ってまいります。私事ですが、娘がアトピー性皮膚炎および重症の卵アレルギーを罹患したことを契機に、皮膚疾患を抱える小児をケアする方の気持ちに寄り添うことがさらにできるようになったと自負しております。

また、現在でも自治医大附属病院にて膠原病専門外来を担当しており皮膚症状を契機に他臓器疾患の診断に結びつくことも多く、内臓の鏡としての皮膚症状を見逃さない努力を今後もしていく所存です。膠原病を疑う皮膚症状（難治性の凍瘡、紫斑、レイノー症状、手のこわばり、日光過敏、顔面紅斑、脱毛、皮膚掻痒症、目や口の乾燥症状など）について積極的に介入したいと考えておりますので、どうぞご紹介いただければ幸いです。その他、高齢化や糖尿病、透析患者の増加とともに、皮膚掻痒症、多剤内服による薬疹、痒疹、白癬や胼胝、鶏眼などの足のトラブル、ADL低下に伴う褥瘡などに対する需要が高まっており、他科医師、皮膚排泄（褥瘡）ケアナース（WOC）および爪外来担当ナースとも連携し、褥瘡対策、スキンケア、フットケア、陥入爪の診療にも力を入れていきたいと考えております。さらに地域の基幹病院として、入院が必要な方や皮膚腫瘍の手術も受け入れておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

決算の状況

(単位:円)

区分	平成27年度		平成26年度		比較増減
	金額	構成比	金額	構成比	
病院事業収益	7,438,216,101	100.0%	6,045,697,089	100.0%	1,392,519,012
1 医業収益	6,950,645,328	93.4%	5,919,700,881	97.9%	1,030,944,447
(1) 入院収益	4,505,156,173	60.6%	3,765,518,218	62.3%	739,637,955
(2) 外来収益	1,775,866,091	23.9%	1,615,191,575	26.7%	160,674,516
(3) その他医業収益	669,623,064	9.0%	538,991,088	8.9%	130,631,976
2 医業外収益	136,635,853	1.8%	125,996,208	2.1%	10,639,645
3 特別利益	350,934,920	4.7%	0	0.0%	350,934,920
病院事業費用	7,395,566,724	100.0%	5,909,146,048	100.0%	1,486,420,676
1 医業費用	6,540,268,771	88.4%	5,710,858,023	96.6%	829,410,748
2 医業外費用	805,121,683	10.9%	198,288,025	3.4%	606,833,658
3 特別損失	50,176,270	0.7%	0	0.0%	50,176,270
当年度総利益	42,649,377		136,551,041		▲ 93,901,664
前年度繰越欠損金	0		0		0
当年度未処理欠損金	0		0		0

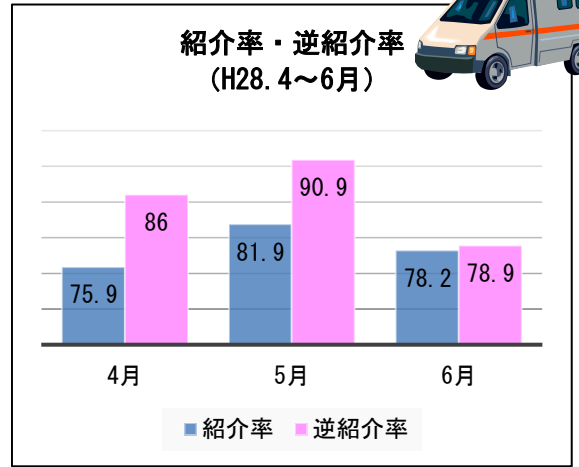
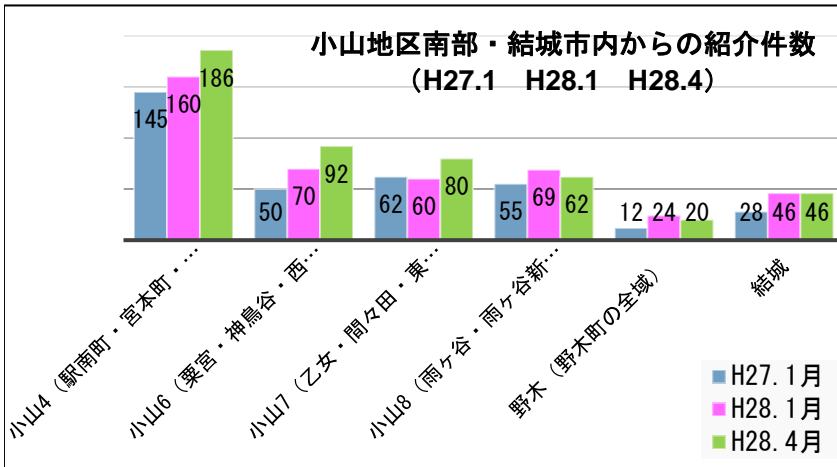
平成27年度の業況は、26年度に続き、独法化後3年連続での黒字計上を達成出来ました。27年度は病院機能評価の取得、新病院新築移転といった大きな事業を遂行しつつの経営となりました。そのような中、財務面に置いては医業収益が過去最高値に達し、移転に伴い発生した不転嫁消費税、減価償却費増加分等の多大な費用を凌駕する形で利益確保が叶いました。単年度で医業収益が約10億円増加したことは過去にも例が無く、地域医療の担い手である小山地区医師会の皆様との紹介逆紹介を通じた医療連携無くしては成し得ない成果です。従来同様、このような連携と協力による地域医療体制の構築に共に歩んで頂けますことを願って止みません。

さて、28年度も後半に入ろうとしております。1月より新病院にて外来診療をスタートさせ、不慣れなことから、当初患者様、医師会の皆様への対応で御迷惑を御掛け致しましたが、現在は安定し、移転時に激減した入院患者数も早々に回復して、満床に近い病床稼働率を現在も維持しております。“最高の患者サービス”を目指し、地域の皆様からの支持を確たるものにするための努力が、そのまま当院経営健全化に繋がることを信じ、加えて地域中核病院としてのあるべき姿を小山地区医師会の御力添えを賜りつつ、今後も模索し、具現化出来るよう、スタッフ一同、精進を重ねて参ります。



医療連携室よりお知らせ & 報告

- 当院は平成 28 年 1 月、現在の小山市南部に位置する神鳥谷に新築移転し、その後、小山地区南部からのご紹介が増加しております。



- 「第 2 回 地域完結型医療・連携の会」が、7 月 27 日(水)開催されました。院外の先生方もたくさん出席され、活発な情報交換がされました。「地域完結型医療・連携の会」今後の予定をお知らせいたします。多数ご参加くださいますよう、お願いいたします。

新小山市市民病院
地域完結型医療・連携の会 ご案内

第 3 回 地域完結型医療・連携の会
日 時 2016年9月15日(木)19時15分～
会 場 新小山市市民病院 さくらホール(多目的ホール)

口各領域における紹介患者の症例検討会 19:15～

- ◇呼吸器内科領域における紹介患者の症例報告
- ◇腎臓内科領域における紹介患者の症例報告
- ◇脳外科領域における紹介患者の症例報告
- ◇総合診療科領域における紹介患者の症例報告

※当初の予定を一部変更しております。

共催：一般社団法人小山地区医師会・新小山市市民病院
※軽食を用意しております。
お問い合わせ先：新小山市市民病院 医療連携室 (TEL: 0285-36-0252)

← 「第 3 回 地域完結型医療・連携の会」

回数	日程	担当診療科
3 回	9 月 15 日 (木) 19 : 15 ~	呼吸器内科 腎臓内科 脳外科 総合診療科
4 回	11 月 17 日 (木) 19 : 15 ~	神経内科 内分泌代謝科 整形外科 泌尿器科
5 回	1 月 19 日 (木) 19 : 15 ~	呼吸器内科 腎臓内科 循環器内科 外科
6 回	3 月 16 日 (木) 19 : 15 ~	総合診療科 消化器内科 婦人科 心臓血管外科

- もの忘れ外来からのお知らせ
7 月より、もの忘れ外来は火曜日・木曜日の週 2 日行っております。予約が必要となりますので、医療連携室の予約専用電話にご連絡ください。(TEL: 0285-36-0254)

患者支援センター (受付時間 平日 8:30 ~ 17:15)

- ◇ 医療連携室 : 0285-36-0252
(緊急の患者紹介・転入相談・その他地域連携に関すること)
- ◇ 予約専用ダイヤル: 0285-36-0254
(もの忘れ外来・内科・神経内科・循環器内科の受診予約・胃カメラ・心エコー・腹部エコーなどの検査予約)
- ◇ 医療相談室 : 0285-36-0256
(医療相談・退院調整に関すること・MSW に連絡・その他、外来患者の各種相談に関すること)
- ◇ FAX : 0285-36-0352
- ◇ メール renkei@hospital.oyama.tochigi.jp ※メールでも受付しております。